

繼續事業評估調書

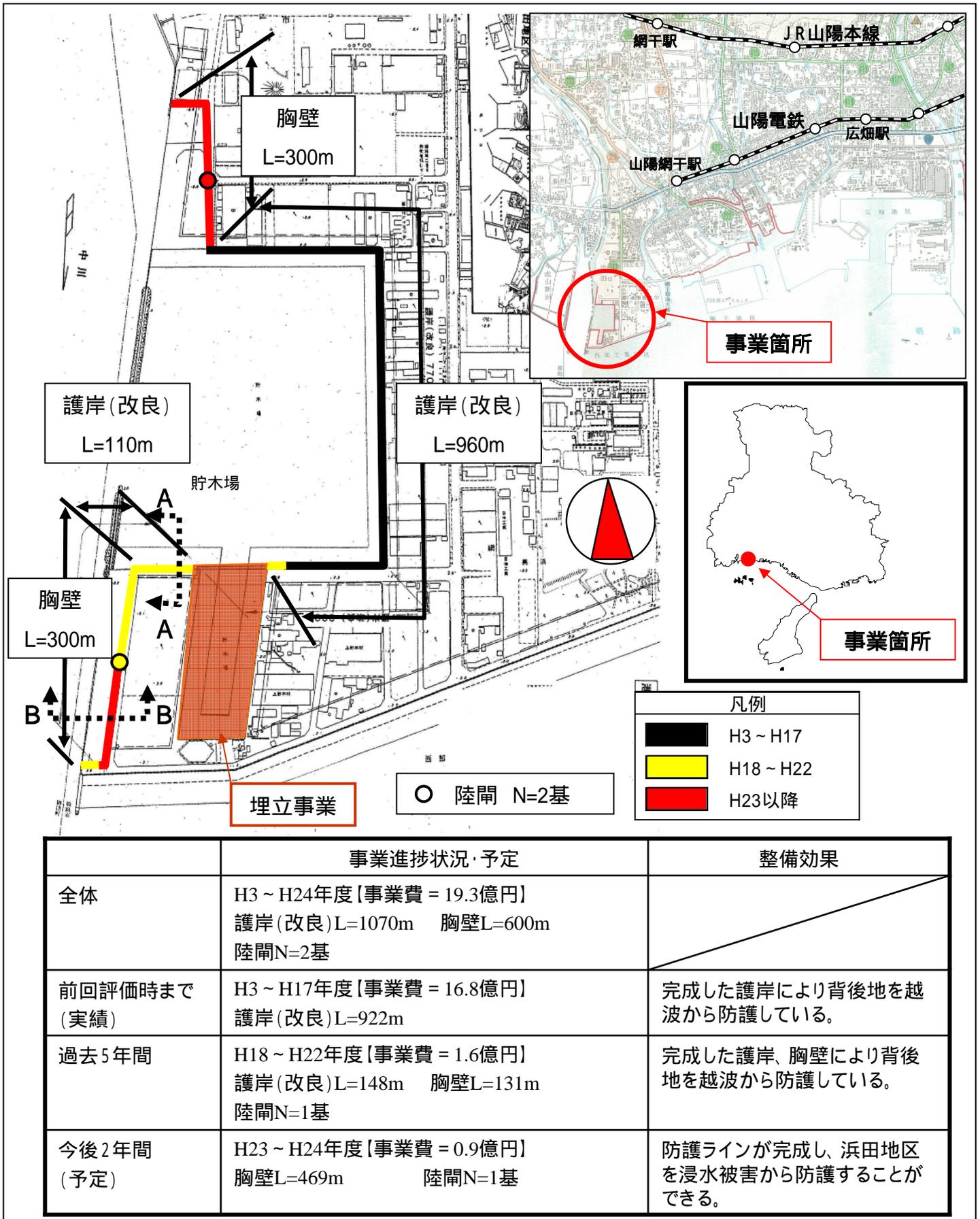
【海岸事業】

土木局港灣課

投資事業評価調書（継続：再評価〔第3回〕）

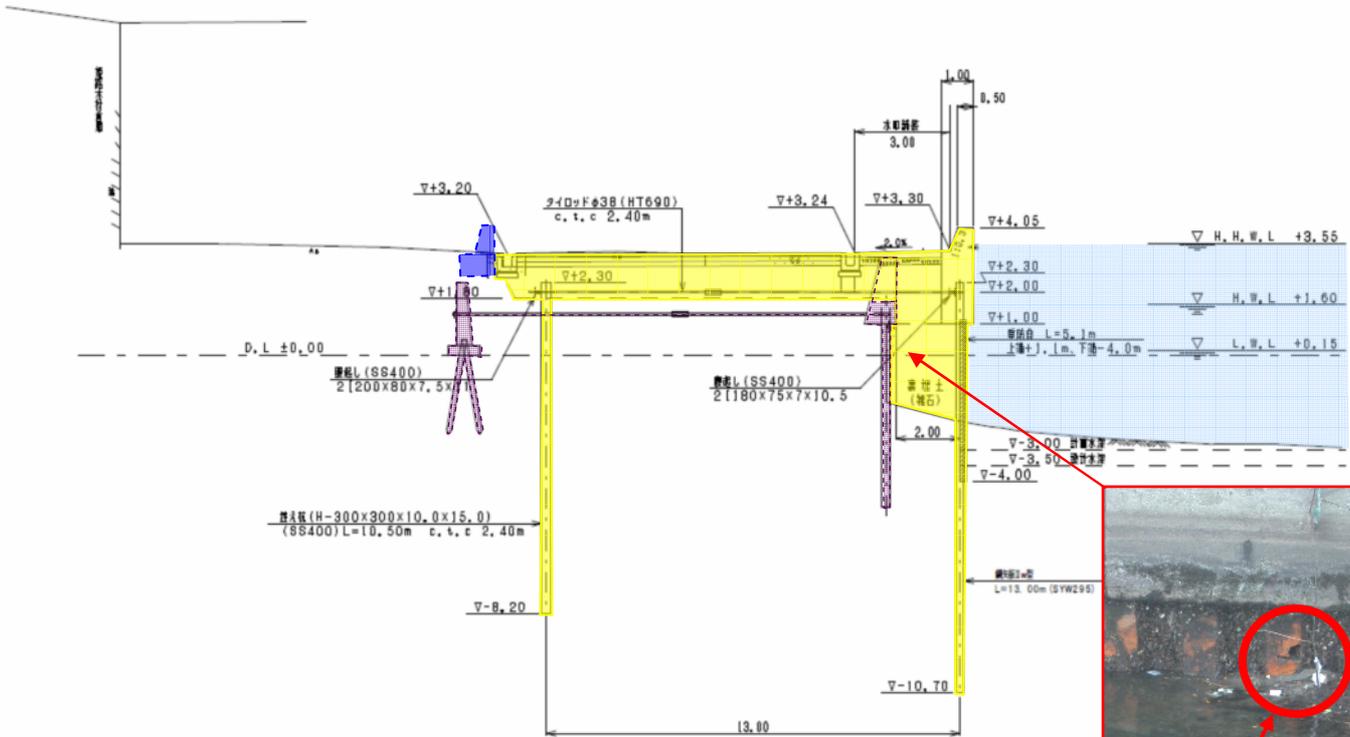
部課室名	県土整備部土木局 港湾課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	港湾課長 大瓦 巖 (海岸・防災係長 門野 清貴)	内線	4440 (4452)
事業種目	海岸事業	新規評価年度	-	現計画	再評価時点
事業名	姫路港海岸 高潮対策事業	事業採択年度	H 3	総事業費	19 億円
		着工年度	H 3	内用地補償費	- 億円
事業区間	浜田地区	再評価年度	H 1 2	完成予定年度	H24
			H 1 7	進捗率 (内用補進捗率)	96% (-)
所在地	姫路市網干区浜田			残事業費	1 億円
事業の目的				事業内容()前回評価時点	
<p>姫路港の西端に位置する浜田地区は、背後に多数の企業、工場が立地し、西播磨地域の経済や産業の活性化に寄与している。しかし、昭和 40 年頃に築造された護岸は、高潮に対する必要天端高さが不足しており、また老朽化も著しく、高潮による浸水被害の防止に向けた早急な対策が喫緊の課題となっている。このため、本事業では防潮機能の強化を図り、安全安心な生活環境を確保するとともに西播磨地域のさらなる活性化に寄与するものである。</p>				<p>護岸(改良) 1070m (960m) 胸壁 600m (750m) 陸閘 2基 (2基)</p> <p>[負担割合 国:1/2 県:1/2]</p>	
事業を取り巻く社会経済情勢等の変化	<p>・平成 16 年台風 18 号による高潮の影響で未整備箇所から越波し、一部道路が冠水し、背後地の企業が敷地内の浸水に不安を抱いており、高潮対策への関心が高まっている。</p> <p>【前回評価時点からの事業計画の変更概要】</p> <p>・貯木場南西部について、当初は既設護岸背後に胸壁を整備する予定であった。しかし、実施に先立ち、平成 18 年度に既設護岸(昭和 40 年頃築造)を調査したところ、老朽化が著しいことから、既設護岸の更新が必要であることが判明した。このため、胸壁整備を予定していた 110m 区間を護岸改良に変更した。</p> <p>・岸壁から背後の埠頭用地への通路とする胸壁開口部の位置(陸閘設置位置)に関して、利用者との調整に時間を要したが、概ね調整が整ったことから、残る陸閘等について設計、施工を進め、平成 24 年度迄に完成する。これにより、完了年度を平成 19 年度から平成 24 年度に延伸する。</p>				
進捗状況	<p>・護岸(改良):平成 20 年度に 1070m 完成。</p> <p>・胸壁:平成 22 年度迄に 131m 完成。残る 469m は平成 24 年度迄に完成予定。</p> <p>・陸閘:平成 22 年度迄に 1 基完成。残る 1 基は平成 24 年度迄に完成予定。</p>				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見及び対応方針 (H17 年度再評価)	【審査会意見】高潮による浸水被害を防止し住民の安全と安心を確保するものであり、今後とも必要と認められるため、事業継続は妥当。		【対応方針】当初工程よりも遅れているが、今後、早期事業完了を目指す。		
(1)必要性	<p>・残事業区間について、必要な天端高さを満足していないため、胸壁を整備することで、背後地にある資産を高潮による浸水被害から防護し、地域の安全と安心を確保する必要がある。</p>				
(2)有効性・効率性	<p>・費用便益費総事業 B/C=1.8 (前回評価時点 B/C=2.4) 残事業 B/C=19.3</p> <p>・残事業を完成させることで、浜田地区を浸水被害から防護することができる。</p>				
(3)環境適合性	<p>・護岸(改良)工事については、既設護岸前面に設置することから、景観に与える影響は少ない。</p> <p>・胸壁工事についても、既存の岸壁背後に高さ 1m 程度の構造物を設置するものであり、景観に与える影響は少ない。</p>				
(4)優先性	<p>・現在、一部区間について未整備であり、必要な天端高さを満足していない。防潮施設は全区間完成することによりその機能を発揮することから、残事業区間について整備を行う必要がある。</p>				
再評価の結果	継続	左の理由	事業の必要性は事業採択時と変わっておらず、背後地の企業からも早期完成を望む声強いことから、継続して事業を実施する必要がある。		

事業進捗状況概要図(継続:再評価(3回目))

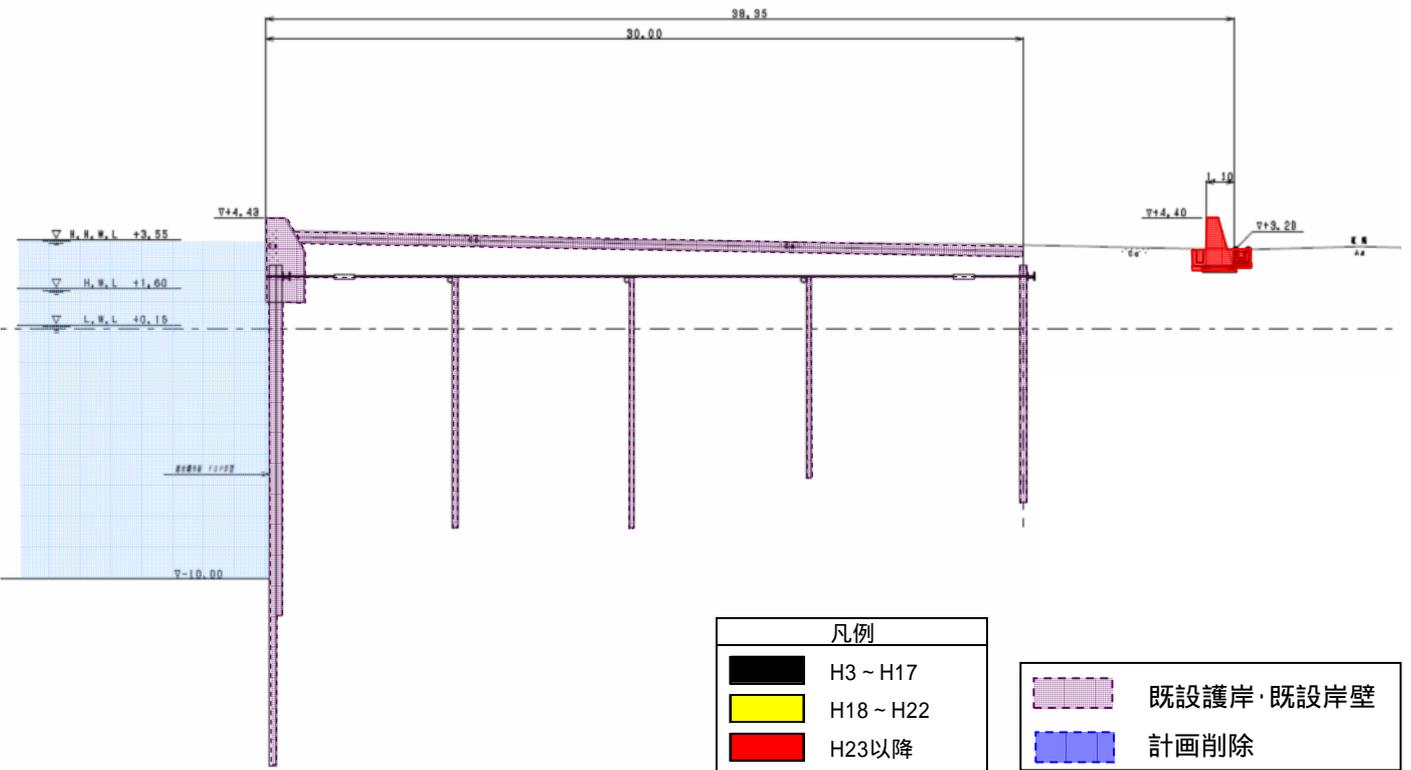


姫路港海岸 浜田地区 高潮対策事業 断面図

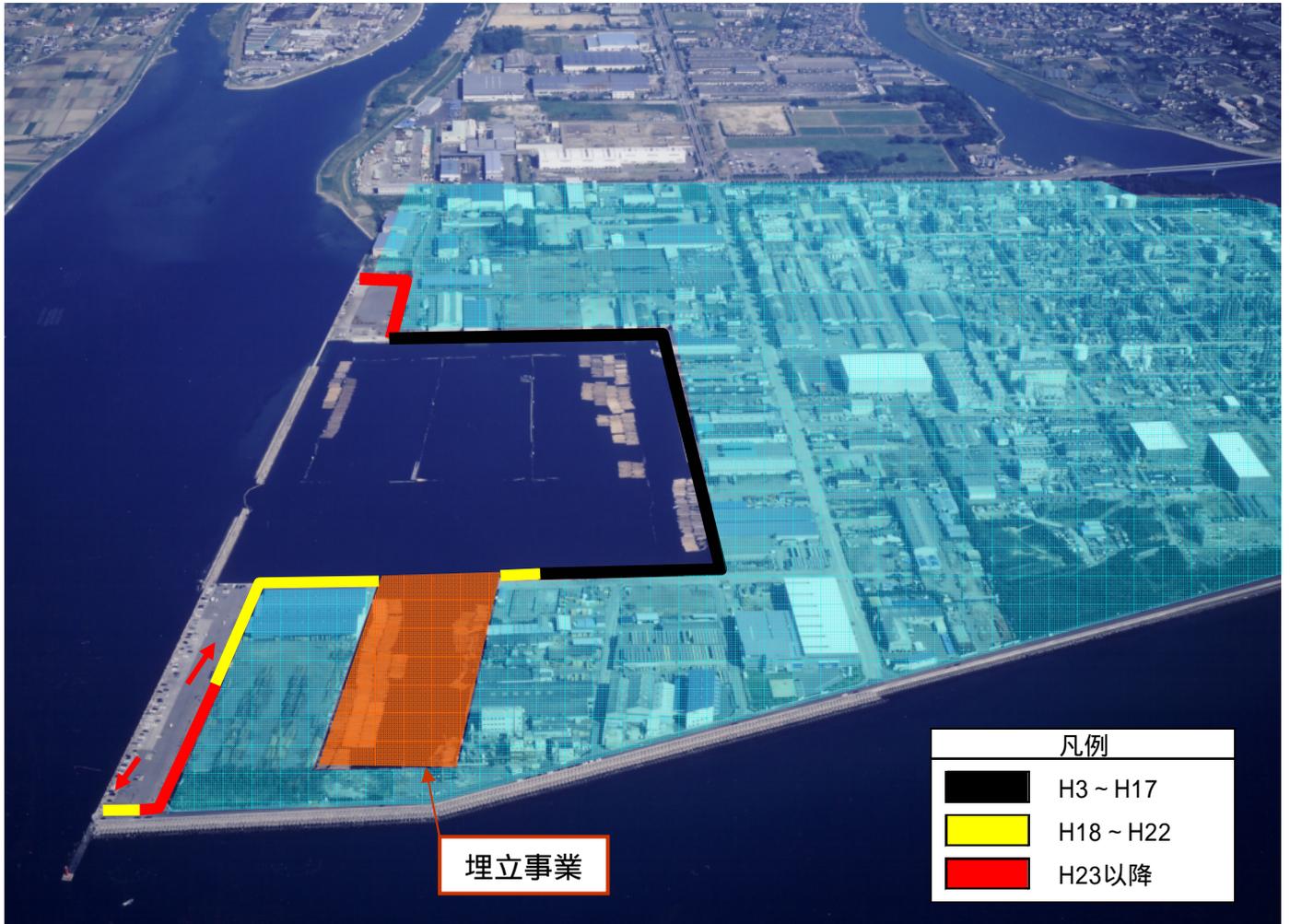
護岸断面図 (A - A断面)



胸壁断面図 (B - B断面)



姫路港海岸 浜田地区 高潮対策事業 航空写真



平成16年台風18号被災状況写真



姫路港海岸 浜田地区 高潮対策事業 整備箇所写真

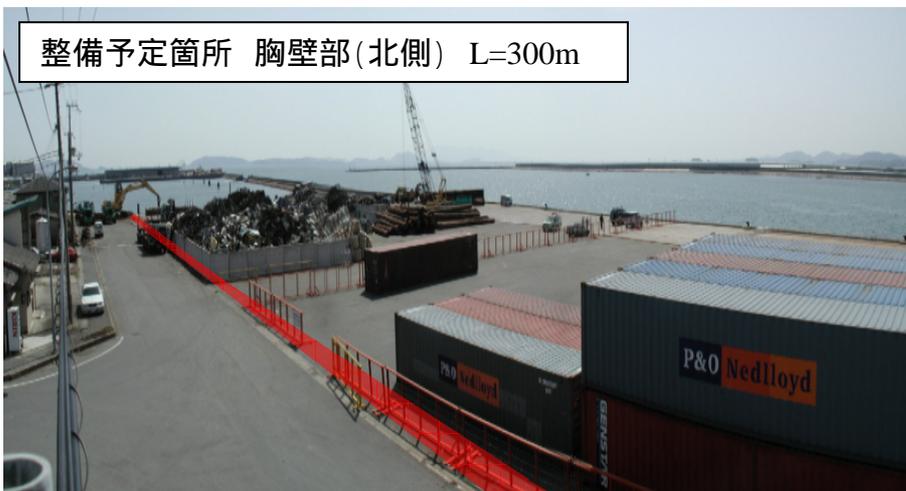
整備済み 護岸(改良)部



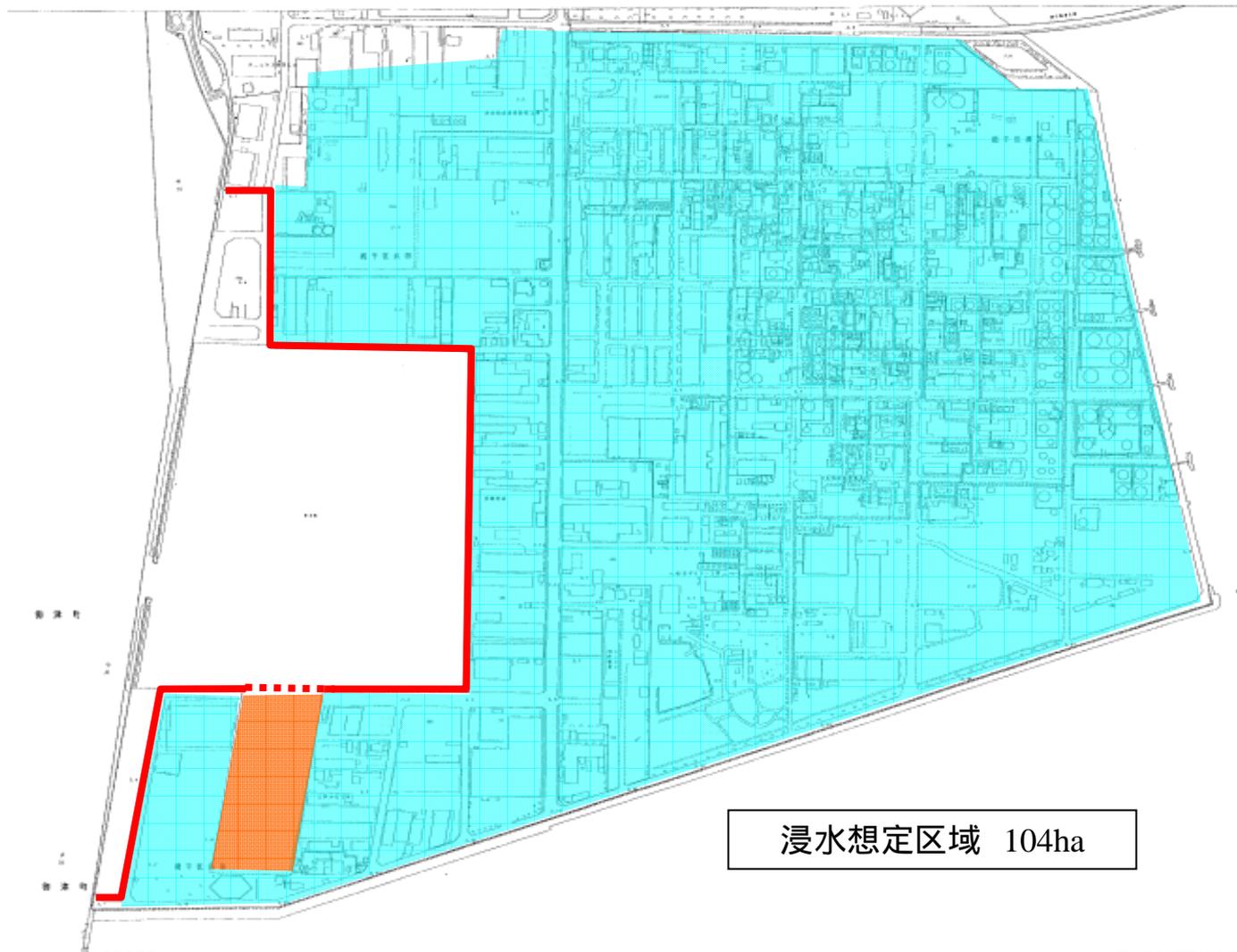
整備予定箇所 胸壁部(南側) L=300m



整備予定箇所 胸壁部(北側) L=300m



姫路港海岸 浜田地区 高潮対策事業 浸水想定区域図



計画及び実施工程

	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24		
護岸(改良)	■																							
胸壁																■	■	■	■	■	■	■	■	
陸閘																■	■				■	■	■	

■	: 前回評価(H17)
■	: 実施・計画

費用便益比について

1. 便益(B)の項目

主な便益(B)	算出方法
浸水防護便益	浸水が予想される地域(浸水想定地域)で防護される資産の総和をもって便益とする。 $\text{資産額} = (\text{事業所資産}) + (\text{公共土木施設、公益事業等資産額})$

2. 費用便益比(B/C)について

便益(B)		費用(C)			B/C
便益額 (百万円)		総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理 費(百万 円)	
事業全体	5,780	3,251	3,067	184	1.78
残事業	1,623	84	76	8	19.26